

キバナアキギリの新変種—キソキバナアキギリ (新称)

今 井 建 樹

K. Imai : *Salvia nipponica* Miq. var. *kisoensis* K. Imai. var. nov.

キバナアキギリの花期は普通8月～10月である。ところが木曽谷で6月3日に開花寸前のキバナアキギリが目にとまった。これはと、6月19日に再度訪れてみると花は満開で、ざっと見た限りではキバナアキギリそのもののようである。

そこで本種とキバナアキギリとの差異を調べて見ると次のようであった。

1. 花期が6月と早い。
2. 茎は高さ20～50cmとキバナアキギリよりやや高く、茎部が倒伏することなく直立し、細くてすなりしていてスマートである。
3. キバナアキギリは茎にある軟毛の多少に大きな個体差があるが、本種はその最も少ない方に属している。
4. キバナアキギリは側枝を出して花穂をたくさんつけるが、本種は側枝を出さず、1株1花穂である。
5. キバナアキギリは花を10段内外着け、その間隔も短かく密であるのに対し、本種は2～4段でその間隔も長く粗である。
6. 花冠や萼がやや大型である。キバナアキギリは花筒の基部に毛環があるが、本種はそれを欠く。

7. 生育環境は森林下の陰地で、川岸などの多湿地に群生する。

8. 生育場所は南木曽町、山口村等木曽南部である。

以上のことからこれを変種として、その産地からキソキバナアキギリ *Salvia nipponica* Miq.; var. *kisoensis* K. Imai としたい。いろいろとご指導いただいた奥原弘人先生に厚くお礼申し上げます。

Salvia nipponica Miquel var. *kisoensis* K. Imai, var. n.
Mense Junio floret. Caulis 20-50cm altus, basi non repens et erectus, non ramosus. Flores maghi, pauci; in tubo corollae basi gyrus pilorum non videtur. Pili caulis superne laxi, inferiore non sunt. Crescit in loco umbroso vel secus flumine.

Nom. Jap. Kiso-kibana-akigiri (K. Imai, nov.)

Hab. in loco umbroso (550m alt.) montis Shizumo, Kiso-gun Praef. Nagano (Junio 19, 1989, K. Imai- holotypus in Herb. SHIN no. 132787).

〔植物ニュース〕 140. レンブクソウ *Adoxa moschellina* L.

1989年6月20日八ヶ岳に登ったところ、標高2500mのところでレンブクソウ数本が花を開いていた。そこは岩壁の下を通称草着と呼んでいるところであった。この岩壁にはヤツガタケキンボウゲ・ヒナリンドウ・ヒメセンブリ・ヤツガタケシノブなどの稀品が生育しているところで、普通の登山者の通路ではない。

レンブクソウは近畿地方以东・北海道・北半球の温帯に広く分布するとある。こうした高山帯に生育しているのを見たのは初めてである。本種が北は北海道まで分布しているので、こうした寒帯的な気候のところまで分布できる適応力があって、今までその分布を気付かなかっただけだろうか。それとも八ヶ岳だけが特殊なのだろうか。形態は特に変わったところは認められなかった。(今井 建樹)

〔植物ニュース〕 141. ハルナユキザサ (ゆり科) *Smilacina japonica* A. Gray var.

robusta (Makino et Honda) Ohwi

ハルナユキザサの分布について、前号植物ニュース133で記した南佐久郡南牧村平沢に近い山梨県の清里(大桑村)の八ヶ岳横断道路の東沢橋付近で、1989年5月20日に採集した。川俣川の溪谷で標高は1,460mである。

現地は県外であるが、佐久に隣接するし「山梨の植物誌」(昭56 植松)にも記録がないので、ここに記しておきたい。

本種の県内での分布は、軽井沢、南牧村の野辺山と平沢、そして木曽の中部の各地と下伊那(奥原弘人氏、本誌20号による)ということになる。

(池田登志男)